

R5産にんにく しみず有機施用試験及び炭施用試験結果

農研機構芽室拠点にて、しみず有機連用試験及びしみず有機+炭施用試験を実施した。試験区はそれぞれ3反復設置し、無防除である。

試験①：しみず有機連用による効果を見るための試験区を設置した。

対照区：BS508UF 120 kg/10a

試験区：BS508UF 120 kg/10a + しみず有機 200 kg/10a

試験②：しみず有機と炭併用による効果を見るために試験区を設置した。

対照区：BS508UF 120 kg/10a

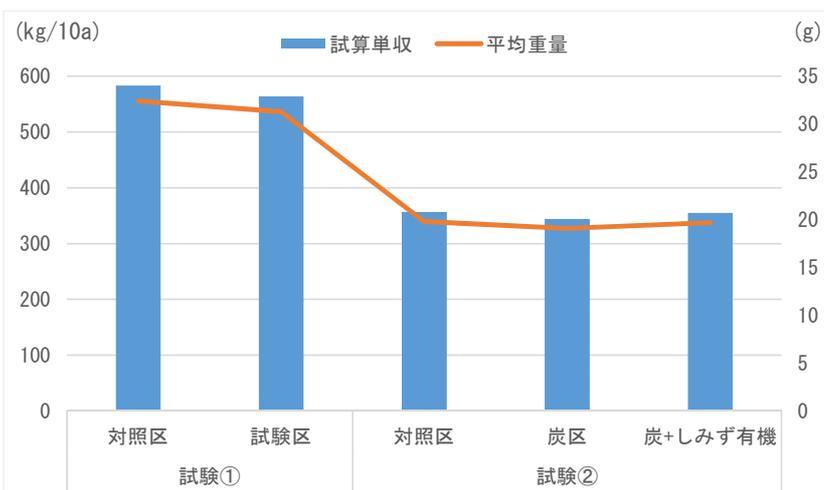
炭区：BS508UF 120 kg/10a + 木炭 1,000 L/10a

炭+しみず有機区：BS508UF 120 kg/10a + 木炭 1,000 L/10a + しみず有機 200 kg/10a

土壌分析値（土壌採取日：7月20日）

試験	区画	pH	リン吸	CEC	有効態リン酸 mg/100g	交換性石灰 mg/100g	交換性苦土 mg/100g	交換性カリ mg/100g	熱水抽出性窒素 mg/100g	腐植含量 %
①	対照区	6.2	1448	18.2	25.0	279.5	68.0	20.7	4.71	5.6
	試験区	6.2	1498	18.9	25.0	237.1	59.7	23.6	4.42	5.8
②	対照区	6.2	1498	17.0	20.9	220.9	61.7	30.9	4.88	5.3
	炭区	6.2	1401	14.5	16.5	276.9	72.6	29.0	4.64	4.6
	炭+しみず有機	6.2	1479	16.8	18.9	323.5	89.9	33.1	4.42	5.1

試験結果と考察



試験①

◇ 収穫前に各区10株・3反復の草丈、葉数、葉鞘径の3項目について生育調査を実施した。区画による生育差は見られず、町平均と比べると草丈が大きかった。

◇ 収量調査結果について、試算単収に有意差はなかった。収穫物を重量別にカウントしても大きな差はなく、収量差や製品率の差は判然としなかった。

◇ 土壌中に化学肥料の成分が十分にあったため、しみず有機をプラスで施用した事による生育差・収量差が明確に出なかったと考えられる。

試験②

◇ 試験①と同様に収穫前に生育調査を実施した。区画による生育差は見られず、町平均と比べると草丈がやや大きかった。

◇ 炭区では昨年同様に収量減となった一方、炭+しみず有機にする事で収量が安定する。

- ◇ 各区の試算単収に大きな差はなく、有意差もない。
- ◇ 試験②の区画全てにおいて、町内圃場や試験①と比べて小さい球の数が多く、収量も低い。土壤分析の数値を見ると、炭区と炭+しみず有機区で有効態リン酸の数値が 20mg/100g 以下と特に低く、低収量に繋がったと考えられる。試験①②どちらの区画もにんにくに適した土壤でないため土壤改良が必要である。